神奈川県公立中学校教育研究会

美術部会　会報

2019年度研究報告

神奈川県公立中学校研究部会　広報部

2019年度　美術会報目次

１、１ブロック　横浜地区 ---------- １ｐ～２ｐ

２、２ブロック　川崎地区 ---------- ３ｐ～４ｐ

３、３ブロック相模原地区 ---------- ５ｐ

４、４ブロック横須賀地区 ---------- ６ｐ～７ｐ
逗葉地区 ---------- ８ｐ～９ｐ
三浦地区 ---------- １０ｐ

５、５ブロック　鎌倉地区 ---------- １１ｐ
茅ヶ崎地区 ---------- １２ｐ
藤沢地区 ---------- １３ｐ～１４ｐ

６、６ブロック伊勢原地区 ---------- １５ｐ
中地区 ---------- １６ｐ～１７ｐ
平塚地区 ---------- １８ｐ
秦野地区 ---------- １９ｐ～２０ｐ

７、７ブロック足柄上地区 ---------- ２１ｐ
小田原・足柄下地区 ---------- ２２ｐ
南足柄地区 ---------- ２３ｐ

８、８ブロック　座間地区 ---------- ２４ｐ
綾瀬地区 ---------- ２５ｐ
海老名地区 ---------- ２６ｐ
厚木・愛甲地区 ---------- ２７ｐ

９、広報部連絡 ---------- ２８ｐ～２９ｐ
10、編集後記 ---------- ３０ｐ

表紙写真　横浜地区研究大会より

１ブロック横浜地区

第 46 回神奈川県公立中学校教育研究会　美術科部会研究大会　横浜地区大会　報告

大会テーマ　「みること　みえてくること　～学びの行く先～」

令和元年 11 月 6 日（水）：横浜美術館

本大会のテーマである、「みること　みえてくること～学びの行く先～」は、昨年度より、市中美の研究テーマとして掲げられています。「みること」とは、目の前の対象を観察したり、自分の思いをもちながら心の目で見つめたり、想像を膨らませながら、まだ見ぬ世界に目を向けようとする子ども、そして教師自身の姿を表しています。「みえてくること」とは、「みること」を通して、見方や感じ方の幅を広げ、深めていくことで、自分としての新しい価値や意味を発見することを表しており、教師においては、そうした子どもの姿をつぶさに「みること」によって、「みえてくる」教育活動の成果や課題を不断の授業改善に生かしていこうとする研究態度が表されています。

一方で、「学びの行く先」とは、これからの未来を生き抜くために必要な資質・能力とは何か、という学校教育全体に問われている命題と真摯に向き合い、美術科として育成すべき資質・能力とは何かを明らかにしながら、日々の学習活動における学びの方向性（＝行く先）を検証していこうとする態度を表しています。ここでいう「学び」とは、基礎的・基本的な知識を習得するだけでなく、それらを相互に関連付けながら概念的に捉え、未知の状況に対しても応用、活用することのできる力を育むことであり、時代の変化に応じて自らの思考をアップデートしたり、他者と協働して課題を解決したりしていく力につながるものです。本大会の授業提案は、作品展等で多くの先生から支持された題材を、分科会ごとの研究テーマに照らしながら分析、再構築したものです。そして、「“どのような”活動を通して、子どもの学びが“どう”方向づけられたのか」を示す２つのキーワードによって示されています。

第１分科会「おもう・ひろがる」

「こうしたい」「こうありたい」という生徒の自発的な「おもい」を引き出す仕掛けと、その「おもい」を心豊かに表現したり他者に伝えたりするために既習の知識の活用を促すことで、生徒のみえてくる世界が「ひろがる」ことを目指す授業提案です。

提案者１　横浜市立六角橋中学校　志村　冬佳　提案者２　横浜市立西本郷中学校　海部祐喜子
共同研究者　横浜市立篠原中学校　吉田　浩気　助言者　横浜市立青葉台中学校副校長　山中　裕子

提案１「こんな日のネクタイ」　指導事項Ａ表現（１）ア（ア）（２）ア（ア）Ｂ鑑賞（１）ア（ア）［共通事項］

本題材は中学校に入学して初めてコンセプト（「おもい」）を明確にしてからつくる題材です。各自が設定した「こんな日」からイメージをふくらませ、その日に着けるネクタイの色と形（模様）のデザインそして説明文を通して「イメージを感じさせる」ことが本題材のねらいです。題材を考えるにあたって「知識を詰め込みすぎることなくのびのびと子ども達がイメージを広げられるようにするにはどうしたらいいだろう」ということが根底にあり、「教える」よりも彼らの中から色彩を「惹きだす」ことができるような題材を目指しました。そのためのしかけのひとつとして、子どもたち自身が自分の作った作品の完成を楽しみにすることができるように、完成作品は半立体的に展示できるようにし、ネクタイがひらひらと動くようにしました。

提案２「東本郷中学校のエンブレムを作ろう」

指導事項A表現（1）イ（イ）（2）ア（ア）B鑑賞（1）ア（イ）［共通事項］

本題材は、「学校行事の改変」「新教育課程」「創立40周年」など、本校の大きな変化の節目を迎える1年生を対象とし、自分事として学校の変化を捉え、参画することを目指して、創立40周年にふさわしいエンブレムを制作する題材です。生徒たちは、地域の特色や魅力を知るための調べ学習やフィールドワークを行い、地域や学校に対する自分の「おもい」を育んだ後、友達と協議したり試行錯誤したりする中で、エンブレムに込めるデザインのコンセプトを明確にしていきました。また、学外で活躍するデザイナーと連携して授業を進めることで、デザインの考え方や社会生活に生きるデザインの視点をもたせることにつなげています。

第２分科会　「ふれる・つながる」

日本の文化や美意識に、現代的な感覚をもって「ふれる」ことで、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きに気づくとともに、世界と日本、伝統と革新、生活と美術等との「つながり」を実感的に理解することを目指す授業提案です。

提案者１　横浜市立川和中学校 阿部 文尚　提案者２　横浜市立岡野中学校 沢登 英希
共同研究者 横浜市立中川西中学校 井上 健　助言者 横浜市立西柴中学校副校長 本江伊智郎

提案１「＃屏風なう」　指導事項 A 表現（１）イ（ア）　（２）ア（ア） B 鑑賞（１）ア（ア）［共通事項］

初めに琳派の金屏風にみられる構成の美しさや工夫について感じるところから始める。タブレットを使い配置を考え、構図を変化させたものを実際の構成と比べることで、琳派の屏風にみられる配置や構成の美しさを実感させていく。次に、生徒が作家として現代の屏風を制作するとしたらどのような屏風を作りたいのかを考えさせ、身の回りにある美しさや面白さ、魅力を感じているものに目を向けられるようにし、現代版の屏風作成の主題を探させる。主題を決めたら小型の屏風制作に入り、画材や表現方法を工夫しながら構成していく。

提案２「上生百人一個　～令和記念大型新作発表～」

指導事項 A 表現（１）イ（イ）（２）ア（ア）B 鑑賞（１）ア（イ）[共通事項]

百人一首の歌から自分の思い描くイメージを色や形であらわす和菓子制作と、その作品の思いや良さを伝達するための POP 制作を行った。和菓子制作では、日本の美意識、和菓子や上生の意味、百人一首から日本の伝統美術文化に触れ、POP 広告ではタブレット機器で和菓子を撮影し、パソコンで広告を制作することで現代的なデザイン制作に取り組む。鑑賞活動は、表現の導入段階で既成の和菓子や広告を紹介し、POP 広告制作後は PC 室でそれぞれの画面に生徒の作品をスライドショーで見せ、作者が説明をしながら鑑賞し合うスタイルである。

第３分科会　「さぐる・ふかまる」

鑑賞活動を軸としながら、目の前の作品や自分たちの生活する環境に対して造形的な目を向け、その価値や意味を自分なりに「さぐる」ことで、世界に対する見方や考え方が「ふかまる」ことを目指す授業提案です。

提案者：提案１　横浜市立早渕中学校　宇野拓哉　：提案２　横浜市立上の宮中学校　黒田唯
共同研究者：横浜市立本郷中学校　山田香織　助言者：前福島大学人間発達文化学類教授　天形健

提案１「偶然から、世界をつむぐ」から何かが創造される現場に立ち会う～　指導事項 B 鑑賞（１）ア

国語科との連携による授業の提案である。第１時は美術科でエルンスト《白鳥はとてもおだやか》と出会い、第一印象を個人でワークシートに記入した。作品についてはサイズ以外の情報は何も伝えていない。その後グループで偶然性の高いコラージュ作品を制作した。第２～４時は国語科で詩の学習をし、自分以外のコラージュ作品のイメージで詩を創作した。第５時は美術科でエルンスト作品を再び鑑賞し、詩を作った。生徒達はその詩を読み感想を交流することで、多様な価値観や互いの違いを認め合う気持ちが高まった。

提案２「目指せ！理想の中庭！！～目的に沿ったイス・ベンチをデザインしよう～」B 鑑賞（１）イ（ア）

デザイン思考の５つのステップについて学び、他者の思いや行動を意識しながら学校の中庭のイスやベンチをデザインしていく全４ 時間授業の提案である。第1 時はデザイン思考の５つのステップについて学んだ後、中学校の中庭の現状を共有し、問題点や改善点を出し合った。第２時では、実際に中庭に行き、問題点や改善点を明確にし、班ごとに使う人の気持ちに寄り添ったイス・ベンチのデザインの形を探った。第3時では、個人で考えたデザインを持ち寄り、班で話し合いながら目指すベンチ・イスのデザインを考え、タブレットを使って発表の準備を行い、第４時で班ごとに発表し、クラスメイトの意見をもとにデザインを再び考えた。

２ブロック　川崎地区

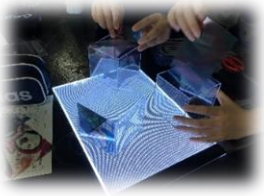
１、研究テーマ

「　つながる　つなげる ～今と未来に生きる私たちの美術～　」

２、研究内容・活動内容

（１）授業研究会

①第 59 回 美術科 6 月会　公開授業 4 教室と研究会（6 月 20 日 於：川崎市立長沢中学校）

【A 表現(1)イ】 見い出す 分かち合う 心地よい形や色彩 『風に吹かれた 花びらのように…』		川崎地区 湯瀬　明意教諭 （渡田中学校）
【B 鑑賞】 生活を美しく豊かにする美術 『安らぎの空間～私たちの教室～』		幸・中原地区 大津　憲司教諭 （今井中学校）
【A 表現(1)イ】 私が見つける生活を彩る光の空間 『私の想いを閉じ込めて ～生活を彩るフォトボックス～』		高津・宮前地区 佐藤　裕佳教諭 （西高津中学校）
【A 表現(1)ア】 豊かなイメージを表す形と色彩 『私の羽根～重ねる重なる形と色彩～』		多摩・麻生地区 柳原　麻子教諭 （中野島中学校）

②地区研究会（第４回目）での授業研究発表

○川崎地区（２月４日 川崎市立臨港中学校　鈴木康夫教諭）

新　A表現（１）ア（ア）、（２）ア（ア）　B鑑賞（１）ア（ア）

『掘り進み版画　～輝かせるために～　』

○幸・中原地区（１月２７日 川崎市立宮内中学校　海老澤貴代子教諭）

新　A表現（１）イ（ウ）　B鑑賞（１）イ

『“HOT”するあかり　～光をデザインする～　』

○高津・宮前地区（２月７日 川崎市立宮前平中学校　小泉愛彦教諭）

新　Ｂ鑑賞（１）ア（ア）

『彫刻の世界をのぞいてみよう～ ロダン「考える人」を体験し、今後の作品鑑賞に生かす～ 』

○多摩・麻生地区（１月３０日 川崎市立金程中学校　中村清太朗教諭）

新　Ａ表現（１）イ（３）ア　Ｂ鑑賞（１）ア

『KOKUBANKSY（コクバンクシー）』

（２）生徒作品展

○第 53 回 神奈川県中学校美術展

（12 月 11 日～12 月 22 日　於：県立青少年センター）

○第 25 回 川崎市立中学校・朝鮮学校学生交流展と研究会

（1 月 10 日～1 月 14 日 於：教育文化会館）

○第 62 回 創造する子ども展

（1 月 18 日～1 月 19 日 於：教育文化会館）

○第 15 回 仙台市･川崎市交流展

（1 月 17 日～1 月 21 日 於：せんだいメディアテーク）

○第 53 回 川崎市立中学校造形展・仙台市交流展

（2 月 26 日～3 月 1 日 於：アートガーデンかわさき）

（３）実技研修会

第 1 回　8 月 2 日（総合教育センター）

講師：北村健太 総括教諭　「 不思議な世界　～一版多色木版であらわす～ 」

第 2 回　8 月 2 日（総合教育センター）

講師：小池研二 横浜国立大学教授　講演「鑑賞教育」

（４）川崎市連合文化祭（10 月 23 日）

→各地区体育館にて、表現活動と鑑賞

【 川　　崎 】臨港中学校

【 幸・中 原】日吉中学校

【高津・宮前】犬蔵中学校

【多摩・麻生】生田中学校

３、今後の課題

今年度は、作品展を行っている川崎市市民ミュージアムが台風により甚大な被害を受け、使用ができない事態が起きましたが､日程や展示場所等を変更し､様々な方にご理解とご協力をいただき、実施することができました。また、従来通り４地区それぞれがテーマをもち、新学習指導要領に則った授業研究を行ってきました。目前に迫った来年度の神中美川崎大会に向け、実践に則した授業発表を中心に、実りある研究大会になるよう全市美術科がまとまり、準備を進めています。

３ブロック　相模原地区

（１）研究テーマ　「子どもたちのポテンシャルを引き出し、自己肯定感を高める授業開発」

（２）研究内容

Ａグループ　Ａ表現「絵画・彫刻」テーマ「対話的な取り組みを通して自己肯定感を高める」

題材　リレーで平面構成

場所　東林中学校（１年）上溝南中学校（１，２年）麻溝台中学校（１年）

方法　黒板に班数分の画用紙を用意し、丸や四角、三角という単純な形に切られたマグネットを班ごとに「なんか良い感じ」と思うところに１人１つずつ貼っていった。リレーのように順番にマグネットを貼り、徐々に完成していく画面に対して班員同士で話し合い、アドバイスをしていく。

結果　平面構成は抽象的な表現であり、つまずきを感じる生徒が多いが、ゲーム感覚で行うことで題材へのハードルを下げ、構成美の要素についても知識が得られた。班ごとに競うことで、班の中に自然に対話しながら良い画面を作ろうとする姿が見られた。さらに、自分たちが知らずに作った画面が構成美の要素に当てはまるため、他の班がつくった画面や題材に対して興味を持って、短い時間ながら深く学ぶことができた。

Ｂグループ　Ｂ表現「デザイン・工芸」テーマ「気づく・広がる・つながる授業づくり」

新学習指導要領の内容や昨年度の授業実践などから生徒が「自分が磨かれた！高まった！」と感じた瞬間や変容の過程を見取る授業アイディアについて話しあった。その結果、次に挙げる手立てが考案された。三年間での成長を見通して検討した中から今後実践する。

① 互いの作品を鑑賞する時間を設け、生徒に付箋を渡し良いと思う作品にコメントを残す取り組みを通して、生徒の自己肯定感を高める。

② 鑑賞後に制作活動と関連を持たせることで、作品の見え方を深め、気づきを増やす。

③ 制作後の「いいところ探し」の過程で各生徒にコメントがフィードバックされる仕組みをつくり、対話を生みだすことで、作品の新たな捉え方や発想や技能を幅が広げる。

④ 他教科との関わりの中での気づきを振り返らせることで美術の中だけの学びではなく、人生を豊かにするために学んでいることに気づく機会とする。など、様々な手立てが考案された。

Ｃグループ　Ｃ鑑賞　テーマ　「美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げるために」

～新学習指導要領を踏まえた授業の改善・充実～

「美しい」から始めるのではなく、どこに興味関心をもったか？から始まる鑑賞教育。形や色、表情やイメージ、知識などをもとに「美しいを考える力」を育てる。

結果　実践前は仏像に対して興味関心は特にない生徒が多かったが、授業を重ねるにつれ単なる美術文化の１つで止まらずに日本美術文化に対する気づきや新たな発見があり、自分の国の見方や考え方が深まった。特に最後のまとめでは、集団で共有・共感する中で、生徒一人ひとりの日本美術文化に対する心の変容が見られた。

驚きもあったけど、心が洗われた気がした！！

４ブロック　横須賀地区

１．研究テーマ

「豊かな心を育てる造形教育」

－子どもによりそい・おもいをかたちに－

－であう・あじわう・つくりだす－

中学校部会　重点課題

１　造形研究会中学校部会の充実

・仕事内容の明文化と組織力を強化する

・神中美、他地区との情報交換や教科研究の場として充実させる。

２　研究活動の推進

・研究会組織の活性化と教材研究・作品交流

・教育課程の根ざし研究を進める

３　小学校や高校との交流

・小中高合同の研究会の意義をふまえ、小学校や高校との交流を深める

研究グループ発表風景

本市の造形教育研究会は、小学校・中学校・市立高校合同で行われ横須賀市造形教育研究会として活動している。教科総会、夏季実技研修会、児童生徒造形作品展、研究発表会等も同一で行われ。さらに特徴としては、美術館と共催で児童生徒造形作品展を美術館の開館当初（２００７年度）より行ってきている。この作品展は、各校の年度内の研究発表の場であり、市立の幼・小・中・高が同じ会場に展示されて、観覧者数も１万６千人に及ぶ。

教育課程、美術科担当者会は中学部会として独立して年数回行われている。また、市研究部主催の研究会も計画的に行われ、近年増えている新採用教員への研修や、学校間での教材研究や作品交流の場として機能している。

２．研究内容・活動内容などの実践報告

４ 月１０日（水）	教科総会　（横須賀美術館）
５ 月　８日（水）	第４回県総会運営委員会　（不入斗中学校）
５ 月２４日（金）	神奈川県公立中学校教育研究会　美術科部会総会
６ 月　７日（金）	造形研究会中学部会　（不入斗中学校）…各校の年間計画他
６ 月２５日（火）	教育課程全体会　（文化会館大ホール）
８ 月　１日（木）	中学校教育課程研究会第２日目（北下浦中学校　海原　仁美先生） 文書提案　～鑑賞における対話的な学びから表現へ～
８ 月　２日（金）	研究部研究会（研究中間報告　中連文準備）　（教育研究所）
８ 月　６日（金）	横須賀市夏季研修講座　図画工作・美術（ウエルシティイ市民プラザ） （文部科学省　視学官　東良　雅人氏　『美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成～新学習指導要領を踏まえた授業づくり～』）
８ 月２３日（金）	中学校新学習指導要領説明会　（文化会館）
９ 月　９日（月）～	中連文巡回作品展　（各中学校）
１０月２３日（水）	造形教育研究会中学部会　※県展搬入作品　（不入斗中学校）
１１月　６日（水）	第46回研究大会　（横浜美術館）

１１月３０日（土）～　　第63回三潮会展 横須賀市教職員・ＯＢ展覧会　　（文化会館）
１２月　３日（火）
１１月１４日（木）～１５日（金）　第59回関東甲信越静地区造形教育研究大会（群馬大会）
１１月２１日（木）～２２日（金）　第72回全国造形教育研究大会　（愛知大会）
１１月２７日（水）　造形作品展担当者会　（横須賀美術館）
１２月１１日（水）～２２日（日）　第53回神奈川県中学校美術展　（県立青少年センター）
１ 月１１日（土）～２７日（月）　第72回児童生徒造形作品展　（横須賀美術館）
１ 月２２日（水）　第 72 回造形教育研究会　（横須賀美術館）

研究発表　『無人島　改造　大作戦』
横須賀市立明浜小学校　入間川　希先生
講演会　『造形作品展を巡る』
講師
横須賀市立横須賀総合高等学校　高野　芳幸先生
横須賀市造形教育研究会前会長　黒岩　弘明先生
横須賀市立馬堀小学校校長　三浦　匡先生

３ 月　６日（金）　美術科事務局会議　（不入斗中学校）
…中総体シンボルマーク審査･年間反省･組織検討
３ 月３０日（月）　造形教育研究会役員事務局会（鶴久保小学校）…年間反省・研究計画

３．今後の課題・まとめ

横須賀美術館屋上より

研究部会が中心となり継続的に研修会・研究会を開いていく方向となっている。また、今後の研究大会に向けても、4 ブロック三浦・逗葉地区と合同の研究会を持ち、各地区ごとにＡ表現１ア・Ａ表現２イ・Ｂ鑑賞の３グループにわかれて研究を進めている。

研究においても、各グループ研究の方向性を明確にし、更に次年度に向けて更に深めていく必要がある。夏季研修会では、東良雅人視学官より講演いただき、生活や社会の中の形や色、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成について３つの柱を中心に理解を深めることができた。講演を受けてやるべきこと、やれること、やりたいことの３つがバランスよく教育課程の中に組み込めるようにしていかなければならない。

１月に行われている「児童生徒造形作品展」は、横須賀美術館開催が市民にも定着してきており、長期間の展示により観覧者も年々増えている。

学校を巡る状況としては、美術科がほぼ１校１名という状況で、近年臨任や新採用が増えている。教科としての情報交換や交流はますます必要と思われるが、校内事情や公務の多忙さ等で出張にも出にくい現状がある。

４ブロック　横須賀地区　逗子・葉山

１、研究内容・活動内容などの実践報告

逗子・葉山地区では今年度連携事業を行うことができなかったので、逗子地区でのとりくみについて報告させていただきます。

逗子地区では小・中連携で夏期研修会、冬期研修会、逗子地区小中学校の合同作品展を開催いたしました。

逗子地区研究テーマ「表現する喜びを大切にした学習指導のあり方」

（１）**夏期**実技研修「ICT を活用した授業づくり及び実践について」

講師　　青木　美穂　先生（県立総合教育センター）

ICT を用いた指導法に視点を置き、「消しゴムはんこの手ぬぐい制作」の題材で研修をしていただいた。まず、道具の使い方や扱う際の留意点、作業手順などをＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔで説明する実践を見せていただいく中で、スムーズな指導の流れをとしてＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔで説明する際に、言いたいセリフをすべて打ち込んでしまうのではなく、要点やアニメーションを活用し、分かりやすく明快なものにすることや、具体的な資料として映像を埋め込むなどの方法を丁寧に教えていただいた。実際に消しゴムはんこを制作する際には題材として、中学校は通常の消しゴム、小学校は爪楊枝で削ることのできる消しゴムをご提案頂き、制作。カッターナイフの使用が難しい学年や児童生徒が同じように制作に取り組める材料があることを知り、同じように取り組める方法があることを知った。

実際の制作で使用した道具は、カッター（小学校は爪楊枝）・トレーシングペーパー。小学校、中学校と９年間授業の中で使用する道具だが、子どもの様子を見ると、道具本来の使い方や、活用の仕方などが分からずに使用してしまっているという現状がある。そのため、使い方などについてもＩＣＴを活用し、正しい使い方や、利便性などをわかりやすく伝え、子どもたちが必要以上に怖がることなく緊張感を持ちながら制作活動に夢中になれる指導をしていきたい。

本研修では、ＩＣＴを活用する方法やその利点について教えていただいき、学校現場で実際に取り組める題材や指導方法をご指導いただいた。効果的にＩＣＴを活用することでわかりやすい授業が実践できる方法を知り、学習指導要領にも求められるＩＣＴの活用の実践方法例として知識を深めることのできる研修を実施することができた。

（２）冬期研修「鑑賞について」

講師　野崎　美樹　先生（ＮＰＯ法人スローレーベル　アートエデュケーター）

鑑賞というテーマで、美術とはどのような役割を持っているのか、鑑賞を通し美術教育としてどのような力を伸ばすことができるのか、授業においてどのような鑑賞の実践ができるのかについてご講演いただいた。

まず、野崎先生の現在の仕事から美術、アートについて「アートとは現実世界へのリハーサル」という考えをお話しいただいた。フィリピンの芸術家ＪＫアニコチェの「アートとは革命のリハーサル」という言葉を引用したもので、アートを通し、自分、他者、世界とどう向き合い考え、折り合いをつけていくのか。世界を生き抜いていくための創造的、批判的なスキルを身に付けることのできる分野という見方で、生きる力教育に通ずるものだと感じた。鑑賞については鑑賞と

いうものを「もの」「文脈」、「テーマ」「作者」「鑑賞者」に解体し、それぞれの項目を探求しながら、「わからなさ」や「理解できなさ」と向き合い、「正解」や「ゴールの無い」ことについて自分なりに考え続ける力や、旅をするように楽しむ力を育む活動として捉え、教員は否定をせず、自由な発言の交通整理をするファシリテーションをすることが大切だということをお教えいただいた。鑑賞で育むことのできる力について理解し、言語化だけでない鑑賞の表現方法を実践し、制作活動だけでなく、鑑賞の活動も夢中になれる授業をしていきたい。

本研修では、図工・美術を通して身についてられることや、身に付けさせたい力についてお教えいただき、「作品を見て感想を書く」という活動にとどまりがちな鑑賞の授業を学校現場でも応用できる美術館教育の鑑賞方法の実例を挙げていただきながら教えいただいた。題材の目標だけでなく、教科としての目標についても児童・生徒に伝えられるよう知識を深めることのできる研修を実施することができた。

（３）児童作品を持ち寄り各学校の活動報告

今回は、久木中学校の生徒作品を部員で鑑賞した。
どの子も創作意欲がわく作品の工夫があった。中学校と言うことで、作品への取り組みの幅が広がっていると感じた。また、評価の観点で、提出期限や歩行の状況についても話し合われた。表現活動の楽しさ喜びとともに、教科としての美術についても今後話し合っていきたい。

（４）第 19 回逗子市立小中学校図工・美術作品展について

①ねらい　市内の小中学校の作品を鑑賞し、楽しむ。
市内の小中学校の実践を参考に、より充実した図工・美術教育を目指す。
保護者や市民の方々にも作品を楽しんでもらい、図工・美術教育への理解を求める。
②期日　2020 年 1 月 15 日（水）～1 月 17 日（金）　9:00～17:00　（最終日は 16 時まで）
③場所　逗子文化プラザ　１F　ギャラリー
④内容　授業で制作した平面作品（絵画・版画・デザイン等）、立体作品（粘土・工作等）の展示

今年度４月以降の作品から、パネルに作品を各校で展示する。
賞をつけたりなどの審査はしない。個人作品の他、共同制作の作品でもよい。
今年で 19 回目になった作品展。今回も逗子文化プラザのギャラリーをお借りして展示会を行った。

４ブロック　横須賀地区（三浦市）

１　研究テーマ「小中のつながりを考えた指導方法の研究」

２　研究内容報告

（１）三浦市教育研究会の活動報告

三浦市では小中合同（図工・美術部会）で毎年研究テーマを設け、そのテーマに沿って授業研究や実技講習会、作品持ちよりによる評価や指導方法の情報交換・検討を行っている。小中合同でおこなうことで中学校からでは分からない小学校の教育課程について知ることができ、中学校に繋がる題材や指導についてお互いに検討することができる。今年度は新指導要領を受けて、小学校から中学校まで成長に合わせて取り扱う題材について話し合ったり、五感を働かせて描く実践、作品持ち寄りによる情報交換に取り組んだ。特に「造形的な見方・考え方」に焦点を当て、生徒とどのように向き合うのかということについてを深めていった。

研究大会（横須賀三浦逗葉地区大会）に向け、三浦市の強みである小中を貫いた研究をさらに実践しまとめていきたい

（２）作品展報告

毎年実施される作品展の主なものは「三浦市創造展」「市内教員作品展・市内中学校美術部合同作品展」がある。

①　三浦市創造展

毎年１１月に実施される小中合同の作品展である。基本は授業で制作した美術・図画・工作等を中心とした学習の発表の場である。中学校の出品作品は基本的に授業で制作したものを出品している。今年度は１１月２３日・２４日に三浦市初声市民センターを会場におこなわれた。２日間の来場者は約１２００名。市の施設でおこなうことで作品の管理面での心配がない。昨年美術だけでなく学習全般を扱うことを確認したことで、他教科の先生方にも関心を持ってもらえている。

図 1　三浦市創造展風景

②　市内教員作品展・市内中学校美術部合同作品展

１月１８日・１９日の両日、南下浦市民センターを会場に市内教員作品展・市内中学校美術部合同作品展が開催された。この作品展は普段発表の場の少ない美術部生徒のため、市内３校の交流と制作刺激を考え、美術科から提案し実施されているものである。生徒と教員の作品が一堂に会することで学校関係者以外の地域の来場者にも広く学校の活動を知ってもらう良い機会となっている。

図 2　美術部合同作品展風景

３　今後の課題

神中美横須賀三浦逗葉地区大会に向けて、小中通した「造形的な見方・考え方」に焦点を当てた実践研究を具体的に進めていくことが必要である。

5ブロック　鎌倉地区

1. 研究テーマ

生徒に豊かな表現力をつけさせるための題材研究について

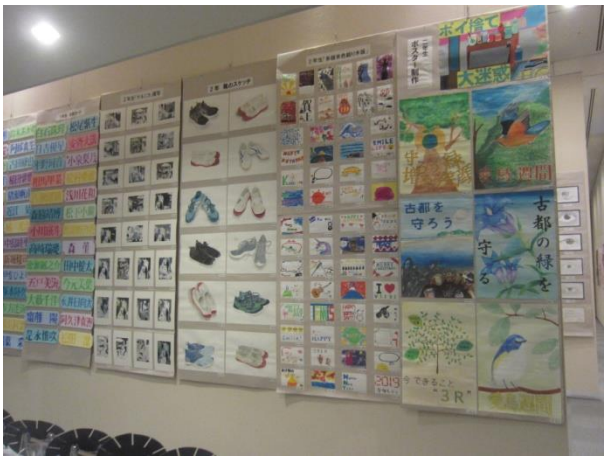
2. 研究内容・活動内容などの実践報告

今年度は、６回の部会を開催した。鎌倉市中文連美術専門部と連携し、夏季休業中に市内美術部生徒の美術館合同鑑賞会を行った。また、１２月の市内中学校生徒美術展の企画運営や授業・題材研究及び、各種ポスターや絵画コンクールの審査などを行った。

夏期休業中の美術館合同鑑賞会は７月２６日に、神奈川県立近代美術館で行われた。市内９校約１００人の生徒が参加し、３つのグループに分かれて学芸員による展示解説などを行った後、各々作品を見て回った。鎌倉市には、美術館が少ないためこのような鑑賞会は生徒にとって貴重な経験となった。また、他校の先生や生徒との交流を持てる数少ない機会であった。

3. 美術展について

今年度は１２月７日～１０日鎌倉市芸術館のギャラリーで市内９校と横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校のあわせて１０校の授業作品の展示と部活動の作品展示を行った。この作品展は、各学校の生徒作品発表の場であると同時に、教員にとっては互いの授業や題材の研究の場でもある。作品をただ展示するだけでなく「この題材を通して生徒にどんな力をつけさせたいか」「教師のねらいがどこまで生徒に伝わっているか」「作品の評価はどのようにみとるか」「表現にあった素材や道具が他におあるのではないか」など、意見交換が活発になされ、１人で教科を担当している我々には今後の授業研究を考える大切な場となっている。



4. 今後の課題

学習指導要領の改訂に向けて、部会内でもしっかりと内容を理解し、日々の授業につなげていきたい。鎌倉市では、小学校の図工と中学校の美術の連携が十分とは言えないので、小中の流れを意識した学びの連続性を今後しっかりと研究していきたい。また、今年度は作品を元にした授業研究は行えたが、研究授業の参観ができなかったため、来年度は積極的に行っていきたいと考える。

５ブロック　茅ヶ崎・寒川地区

１　研究テーマ

「自己との対話　他者との対話」～生きる力につなげる授業～

２

（１）研究テーマ設定の理由

昨年度に引き続き、メインテーマを「自己との対話　他者との対話」に設定した。サブテーマを「生きる力につなげる授業」へ変更し、生徒が自分自身や作品、他者との対話を通し、生きる力を育成できる授業づくりを目指すことを目標とした。今年度も様々な題材や授業の取り組み方を作品研究や美術展を通して共有することで、研究をさらに深められるようにしていきたい。

（２）作品研究

美術部会では、１学級全員の作品を持ち寄り、題材や授業のねらい、材料や技法、教材として扱う時期や時間数などについて、意見を出し合いながら、題材の研究を進めている。基本的に美術科教員が各校１名であることや、題材の選定を任されていることもあり、この作品研究は一人一人の授業観を鍛え、日々の授業を見つめ直し、互いを高め合う貴重な場となっている。

（３）茅ヶ崎寒川地区中学校美術作品展

茅ヶ崎市美術館の全展示室に１６校の生徒作品約２，２００点を展示し、地区中学校美術展を開催した。３週間の開催期間に市内外から３，８００人以上の来館者があり、各校の授業の工夫がうかがえる様々な題材による生徒作品を鑑賞していただいた。この美術展は、私たちの授業から生み出された生徒作品を一堂に公開できるため、外部に向けた発表の機会であると同時に、私たちの研究にとって重要な場であると考えている。搬入日に行う合評会は、各校の取り組みを全体で共有できる有意義な研修となっており、開催中は他県や小学校の教員にも来館いただき、地域や校種を越えた交流・学びあいの場にもなっている。生徒たちにとっても地区の中学生の作品にふれることができ、文化交流の良い機会でもある。来館者に実施しているアンケートでは、中学生の美術表現のすばらしさを感嘆する声とともに美術の授業の大切さを支援してくれる声に、私たちは励まされている。

（４）授業公開（１０月２９日〔火〕　中島中学校）

２年生　　題材「細密描画」～抽象絵画を通してみえてくるもの～

授業者　　政重　由紀　教諭

作品の完成までにある様々なハードルを乗り越えるための仕掛けを取り入れた授業という観点で、授業の参観を行った。研究協議では、授業を通して生徒につけさせたい力を明確にし、生徒が今やるべきこととそのねらいをわかりやすく提示した授業づくりをすることが大切であるということを全体で共有することで、その重要性を再確認することができた。

5 ブロック　藤沢地区

１・研究テーマ『 感じる・考える・表現する　～評価について考える～』

研究テーマ設定の理由

「感じる・考える・表現する　～人・もの・こと　とのかかわりから～」を継続して、「美術という教科の役割を認識し、研究を重ねていく必要がある」と共に、新学習指導要領の改訂に伴い、刻々と変わる社会情勢の中で日常を日々感受する生徒たちの心を反映した作品を適切に評価し、彼らのこれからに活かしていきたいという思いから、副題を「～評価について考える～」と設定した。

美術での表現・鑑賞活動は、私たちが生活していく上で、大変役に立つ活動となり得るものだと考え、表現・鑑賞を通して発想・構想力、表現技能を向上させ、豊かな表現力を伸ばすよう、研究授業や指導実践、協議を通して、今年度の研究テーマと合わせ研究を進めることとした。

２．研究の内容

①　『第５２回藤沢市中学校美術展』

市内１９校に白浜養護学校と学校教育相談センターを加え、藤沢市民ギャラリーで開催した。出品総数２９２５点、会期中の入場者数３２７５名と、今年度から新しい会場へ移り、昨年よりもさらに多くの保護者や学校関係者の鑑賞を得て今年度も生徒作品を発表することができた。今回も各校で展示作品に解説をつけ、わかりやすく見て頂けるように配慮した。少ない授業時間の中でも様々に工夫して取り組んだ作品が多く、興味深く鑑賞することができた。他校の作品を参考にして、新たな題材開発や指導方法についての検討を進めるため、今年もいくつかの作品を取り上げて研究会を行った。

明治中学校の１年生は、「靴のデッサン」に取り組んだ。画面いっぱいに入れるよう構図のアドバイスをしたり、部分的に順を追って描き進めていくよう指導したりしながら、いつも履いている“体育館履き”を改めて観察することを通して、しっかりと物を見る姿勢を大切にしていた。自分が気になったところや、友達から指摘してもらった箇所などを修正しながら、対象を見ることにより自分で課題を見つけ、自分で解決する方法を探すことも学んだ制作となっていた。

村岡中学校の３年生は、パソコンソフトを使用した「単位形からの構成」というデザイン作品を制作。一つの“単位形”を作り、その方向や色味を変えていきながら全体としての色彩に留意しつつ、一枚の画面を構成した。一つの小さな形が、ほんの少しの色や方向の違いで集まることにより、複雑なものに変化していく。絵の具で行ういつもの混色とは違う経験を通して、パソコンの画面上での操作に興味を示しつつ、試行錯誤しながら生徒それぞれが新しい素材での作画に挑戦していた。

②　幼・小・中学校図工美術作品交流研究会（藤小研主催）

小学校では中学生に比べ表現の仕方が大胆で、のびのびと表現している児童の作品が多いように感じた。低学年～高学年へと、それぞれの発達段階の児童生徒の作品を鑑賞し、指導の状況や取り組みの様子を聞くことができた。関心を持った点として、数年前に参加させていただいた時と比べ、小学校の先生方の指導内容が、遠近法やモダンテクニックなどを取り入れた、より技術的な指導をされている点であった。中学校の生徒たちが、小学校でどのような創作活動に触れているのかを知る貴重な場であった。　教師間で互いに指導方法についてのアドバイスや悩み、素材の活用方法についてなど、様々な意見が交わされ、大いに刺激を受けることができた。また、小中の指導連携や中学校の状況を理解してもらう上でも大変役立つものとなった。美術科にとって、様々な教員の意見を聞くことや、発達段階の子どもの作品を見ることはとても貴重な機会であると感じた。

③ 『研究授業』参観・研究協議

湘洋中学校　成田沙織 教諭による研究授業を参観し、その後、研究協議を行った。題材は「地域を元気にプロデュース」である。以前にデザインの授業で、広告の役割やその効果など伝統工芸品の特徴や地域で培われてきた文化について学んだことを活かし、都道府県の特産品や風土などをもとに地域を活性化する手立てを考え、広告デザインの制作へと繋げていく取り組みである。

生徒たちは班活動の中で、それぞれの班が設定し収集した地域の情報を参考にしながら、検討した内容やアイデアを話し合い、ワークシートに書き込んでいた。会話が弾み笑顔が見える班、悩んだ表情がたくさん見える班など、それぞれの班の様子に違いはあっても参加をしない生徒の姿はなく、活発にコミュニケーションを重ねていた。２年生の授業とは思えないくらいに話し合いの取り組みがスムーズで、１年生の時から言語活動を通して課題解決に対する取り組みを継続してきている成果が表れていると感じた。また授業途中で、各班のワークシートを順番に見合う設定があり、よいアイデアの班を参考にして、修正案を検討するなどの様子が見られる班もあり、よりよいものに高め合えっていけるような授業展開の工夫も見られた。

協議の中では、ワークシートのよさや表現豊かなグループ活動について触れられ、地域に目を向けることの大切さや興味、関心を持つよい機会にもなっていると、題材設定に対する評価の声も多かった。また、授業を通してつけられる、大人になった時の課題解決への力に期待が持てるという意見も出され、今後の指導にも大いに参考になる研究授業であった。

④ 教員美術展『ぱぴるす展』

今年で４０回目を迎える美術科教員の美術展で、自身の表現力を高め、教科指導の向上と共に、生徒に還元できるものをと考えて始めた展覧会である。日本画、油彩画、デザイン、彫刻、陶芸、工芸、立体造形などそれぞれの専門分野の作品や、チャレンジした作品を発表する。多忙な校務の中ではあるが、美術科教師の姿勢として、作品をつくること、美しいものを求め続けることをしなくてはならないと始まったもので、今後も続けていくべきことと考えている。

３．まとめと今後の課題

美研究テーマを設定の元、一年間授業実践と研究を行ってきた。今年度から迎えた新たな教員も加わり、他市からの情報なども参考に研究を進めた。

藤沢市中学校美術展では、今まで以上に多種多様な題材や試みがされおり、また同時に豊かな表現を生んでいる作品が数多く認められた。美術部会の活動を通して題材の情報交換をしたり、ワークショップや研究会、研究協議を積み重ねたりしていることが、よい成果につながっていると大いに確認できたといえる。

これからも生徒の実態を考慮し魅力ある授業を展開できるよう心がけ、試行錯誤する授業者の姿勢を忘れず努力していきたい。また実践レポートなどもより充実させ活用し、教科指導の更なる向上に取り組んでいきたいと考えている。

６ブロック　伊勢原地区

1. 研究テーマ

主題　「感じる心を育てるための新たな表現・鑑賞方法の模索」

目標　①基本的な造形能力を育て、一人ひとりの特性に応じた造形活動および鑑賞ができるようにする。

②指導と評価が一体となったカリキュラムづくりを行う。

2. 活動実践

（１）「市内中学校生徒美術展」

１月２４日(金)～２６日(日)

伊勢原市中央公民館１階展示ホール

・会期中の入場者数は３８７人・平日は市内４校から保護者のボランティアを頼み、各日9時から17時まで（最終日は午後3時まで）３日間開催した。

・各校で取り組んだ課題や題材は生徒にとっても指導者にとってもお互いの参考や刺激になり、授業の改善・見直しの機会となった。

（２）市内中学校教育研究美術部会・授業研究

１１月１２日(火)・伊勢原中学校パソコン室「１年・缶バッジ制作」

・缶バッジのロゴデザインをパソコンで制作する研究授業を行った。

（３）教員実技研修

８月２３日(金)・平塚美術館ワークショップ「ポスターでバッグづくり」

・廃棄するポスターを使ったバッグ制作。その他アートカードの検討を行った。

6 ブロック　中地区

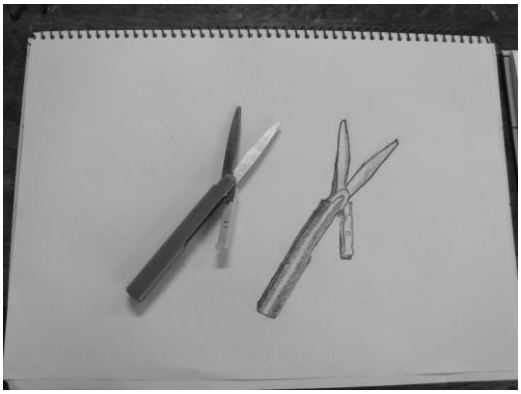
１　研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の工夫」

２　研究内容

2019 年 8 月 2 日（金）に二宮町生涯学習センターラディアンにて、中地区教育課程研究会美術部会が開催され、中郡美術科研究部会の研究発表を行った。発表の内容は、二宮西中学校の 1 年生に対し 1 学期に行った、文房具と体育館履きのデッサンの授業の実践報告が中心である。授業では、中郡の研究テーマである「主体的な深い学び」の実現のために、「無心になって、熱中すること」「デッサンが楽しいと感じること」「よく見て描くこと・気づくこと」を支援の柱とした。具体的には、「モチーフと紙をできるだけ近づけて描くこと」「陰影をつけずに線で描くこと」の 2 点を手立てとした。また、「対話的深い学び」として、ワークシートを用い、自分と他者の作品の良さを知り伝える活動を行った。

【生徒作品　文房具のデッサン】文房具は、紙の上に置いて、そのすぐ横に描いた。



【生徒作品　体育館履きのデッサンと制作の様子】

クロッキー帳を立ててて、並べて描く様子

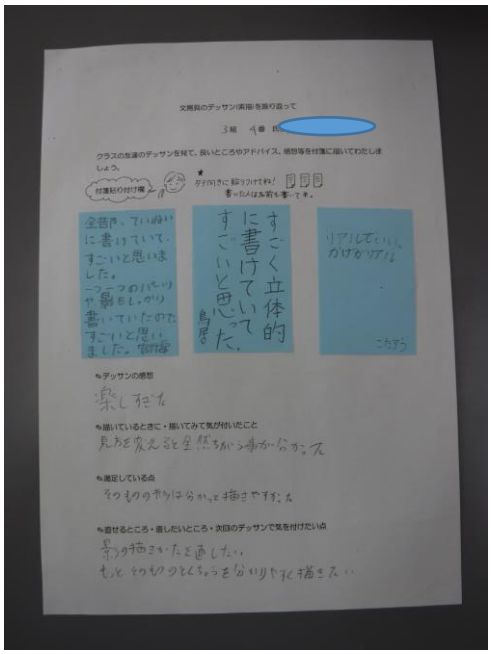
３　今年度の研究の成果

ものと紙を近づけて描くという試みで、モチーフを観察する（見ている）時間が長くなり、比較し違いを自分で見つけやすくなった。その結果「客観的に見て正確に表現できているだろうか」という不安や迷いが減ったようだった。自分で確認しながら作業をすすめることができたので、集中力が高まった。また、並べることで大きさの違いを確かめやすかった。

体育館履きは、クロッキー帳がやや不安定だったことと、体育館履きを描くには画面が小さかったことがマイナス要素としてあったが、一目で比較できることは制作の上で大きな助けとなった。また、工業的でない形は生徒の興味を大いに高めた。紐が複雑に重なりあっている部分は、困難ではあるがそこに楽しさを見出していたことが、ワークシートの振り返りからもうかがえた。

また、陰影をつけずに線だけで表現したことが、よく見ることにつながり、線描だけで立体感をも表現できるという楽しさにつながった。

班で互いの作品を鑑賞し、付箋にコメントを書いて作者にわたした。ワークシートに記入しながら、制作を振り返った。



ワークシートには、友達からもらったコメントを貼った。

４　課題

テクニックを教えるのではなく、見ること、見つめること、対話することに主眼を置いた場合に、それをどう評価していくかが今後の課題である。他の作品と比較するのではなく、その子どもの取り組みをどう評価するか、関心・意欲の高まりをどう見とるかが難しい課題である。美術の基礎となる力を鍛えながら、自分の制作過程や作品への肯定感を高められるような評価の在り方を考察していきたい。

６ブロック　平塚地区

１　研究テーマ

「生涯学習として造形活動と地域や社会との連携」をテーマとした。

２　実践・研究内容

２　中地区教育課程研究会　発表
（１）実施日　令和元年８月２日(金)
（２）会場　　二宮町生涯学習センターラディアン
（３）提案者　水師ふみ教諭
（４）研究授業
「主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の工夫」
（５）研究協議
「対話を通した鑑賞を通して自己肯定感を高める」
ふせんを用いた鑑賞を実際に体験し、対話を交えた鑑賞について多くの意見を交わすことが出来た。

３　計画訪問
（１）実施日　令和元年７月８日(月)
（２）会場　　横内中学校
（３）授業者　藤野さやか教諭
（４）研究授業　「知って得する色のいろいろ」
（５）研究協議　「生活の中にある美術を踏まえた授業作り」

４　実技講習会
（１）実施日　令和元年８月１４日(水)
（２）開場　　平塚市美術館　アトリエ
（３）講師　　浅見俊哉　氏
（４）内容　　「フォトグラム」
カメラを用いずに感光紙に直接物を置き現像する方法で、写真の原理を体験しながら写真の原理や関心を深めることができた。
（５）参加者　１０名

５　授業づくり推進員による公開授業
（１）実施日　令和元年１２月１１日(水)
（２）会場　　山城中学校
（３）授業者　石井有彦教諭
（４）研究授業　「見たいが見つかるピクトグラム」
（５）研究協議　「図画工作及び美術の授業作りの工夫」
ワークシートやスライド、参考作品の準備など、授業を作るポイントなどの協議を深めた。

６　平塚大磯二宮地区中学校美術展
（１）実施日　令和２年１月２９日(水)～２月２日(日)
（２）会場　　平塚市美術館　市民アートギャラリー
（３）平塚市内１６校(ろう学校も含む)大磯二宮地区４校での合同開催

７　今後の課題
今年度は、昨年度からの研究課題である生涯学習として造形活動と地域や社会との連携を継続しながら、生活の中の美術やデザインについて研究を行った。研究協議では、実生活の中に潜む美術を生徒に伝えるためにどのような教材や授業展開を行うかにスポットを当て話し合うことができた。来年度も生徒の深い学びに繋がるよう研究を進めたい。

６ブロック　秦野地区

１、研究テーマ

「３年間を見通した教材選び」　～指導と評価のあり方について

秦野市中学校美術科部会では、昨年に引き続き「３年間を見通した教材選び」についての実践を進めてきた。昨年の研究では１，２年次に身に付けさせたい事項を探り、授業改善を進める目安とすることができた。課題には指導と評価の関連を見直すことがあった。授業の内容や指導法については話題に上がることが多い中、観点別評価資料やその扱いについては担当の職員に任されてきた。今年度実施したアンケートの中にも「評価に不安を抱えている」や「新指導要領で４観点での評価を３観点に置き換えたときに観点ごとのバランスや評価資料の妥当性などをどのようにしていけばよいのかがわかりにくい」との意見があった。

新しい時代を見据え、生徒が多様な状況を乗り越えていく力を身に付けられるために、新指導要領をもとに３年間の学びをより効果的にするにはどうすればよいか。美術の教科を通して生徒の造形的な見方・考え方を育て、資質・能力を伸ばせる学習活動ができるために必要な評価のあり方や方法を考えていきたい。

そこで、生徒の継続した学びに繋げるためには何ができるかを個々の教員の今までの経験で判断するのではなく、市内の美術科で研修を積み共通理解で進めていくことが必要である。今年度は新指導要領実施に向けて、「指導と評価のあり方について」に焦点を当て、各校でのこれまでの取り組みをもとに研究を進めることにした。

２、活動内容

（１）研究日程

４月　１６日　　中教研総会、部会　年間計画作成・テーマ決定・各校での研究開始
５月　２０日　　教科指導訪問、部会（鶴巻中）　研究推進
８月　　２日　　中地区教育課程　（二宮町生涯学習センターラディアン）
１１月２～４日　　はだの子ども野外造形展（水無川河川敷）
１１月　　７日　　美術科教育講演会、部会（西中）　研究推進
講師：神奈川県教育委員会教育局子ども支援課 竹下 譲 指導主事
１月１８、１９日 秦野市中学校美術展
２月　　７日　　美術科研究部会（西中）研究のまとめ

（２）教科指導訪問（鶴巻中）

①　題材名「仏像になって鑑賞しよう」

②　授業内容

修学旅行で見学する仏像などの日本の伝統文化に対して興味関心を高め、仏像を観察して布などを纏ってポーズをとり、iPad で撮影をして鑑賞をし合う内容であった。２～３人のグループになって仏像の顔や手、姿勢、着衣や持ち物に注目して、それぞれの像にどのような思いや意味が込められているかを想像しながらポーズをとり、感じたことや考えたことを話し合う対話型の鑑賞を行うことで自分の見方・考え方を深めていく授業展開であった。また、iPad のロイロノートを使うことで、活動内容を他のグループに分かりやすく伝えることができていた。

③　研究協議

鑑賞授業の形態や展開についての様々な意見交換がされた。鑑賞の活動では作者の生き方や作品の作られた経緯などの背景を知ったうえで作品を鑑賞する授業が多く見られるが、その活動だけでは身に着けにくい「自分の目で見たこと感じたことを人に伝え、自他の違いを通して自分なりのものの見方考え方を育て、制作活動に繋げられる力」を付けさせていくことが必要である。様々な場面で取り入れていくことが生きる力を育てることであり、各校で実践をすることで授業力を高めていけるようにしていきたい。同時に ICT を効果的に取り入れ、より印象に残る授業の展開を研究していくことの必要性も話題になった。

（３）市内中学校美術展

今年度は文化会館が改修工事のため宮永岳彦美術館内にある市民ギャラリーを会場として１月 18、19 日の日程で通年より規模を縮小して開催をした。展示されている作品には制作者のコメントを付けたり、授業のが説明されたキャプションなも用意され、わかりやすい展示の工夫もされていた。当日は悪天候であったが多くの見学者が訪れ、制作した生徒の思いを考えながら作品を鑑賞する姿が見られた。

（４）研究内容

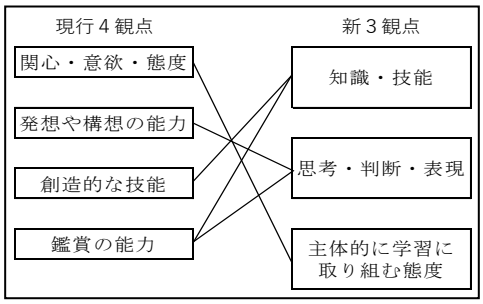
①　指導要領の改訂について

今年度は教育課程研究会や市内の教育講演会で県教育委員会の竹下指導主事より説明を受けた。その中で、国立教育政策研究所から出されている「学習評価のあり方ハンドブック」の内容より改定のポイントとして「教科指導に求められる資質・能力育てる指導」「知識の理解の質をより高め、確かな学力を育成」「豊かな心や健やかな体を育成」などの目標についての説明があり、これからの学習評価の方向性の概要、主体的で対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価についてなどを説明を受けた。美術科においては造形的な見方や考え方をもとに教科の本質に迫る学習が大切であり、共通事項である色や形、材料、光などの性質について造形的な視点を育てる工夫として「木を見る視点」「森を見る視点」を持つという説明もあった。また、各校から出た質問を参加者と共に話し合い、共通理解ができたよい研修になった。

②　観点ごとの評価について

新指導要領では４観点での評価を３観点に変えることが伝えられているが、現時点では観点についての詳しい評価基準になるものは示されてない。

４観点と３観点の関連



そのため現在の４観点での評価基準をもとに授業ごとの評価資料を当てはめて、観点ごとのバランスを考えていくことを進めていくようにした。この新観点は他の教科とも共通しているため、美術科としての解釈が必要であると考えた。中央教育審議会の答申では、各教科等において習得する知識や技能は「個別の事実的な知識のみを指すものではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含むものである。」とされている。さらに美術科の特性として、「一つの決まった答えがあるのではなく個々が築き上げた見方・考え方を深め、豊かな人生を送ることができる資質能力を育成する教科である」ため、美術科においての知識は単なる暗記に頼った知識を示すのではなく、「〔共通事項〕を学習の支えとして、色や形などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること」であり、子どもが豊かに造形活動を行う道具として知識を捉えることが必要である。

３、成果と課題

今回の指導要領改訂では事前から多くの情報が発信され、研修を重ねながら理解を深めることができている。「指導と評価のあり方について」の研究を進める中、新指導要領をもとにどのように３年間の学びを組み立てるかを考えたうえで今まで行ってきた授業そのものを見直し、他校で行われている授業に関心を持ち、情報交換をする中で、授業改善をするよいきっかけとなった。

課題としては、新しい時代を見据え、多様な状況を乗り越えていく力を身に付けられるようにするために、今まで常識と考えられていた教科で身につく力が、将来本当に必要なものなのか、「付けさせたい力」とは何かを議論していくことが考えられる。また、ほとんどの学校で１名の教師が３学年の授業を担当しているので、全校生徒を指導・評価をするために必要な時間はとても大きな負担となっている。特に学期末に集中してしまう成績を出すためにかかる時間をどのように改善していくかが課題である。

7ブロック　県西地区（足柄上）

1. 研究テーマ　美術を学ぶ意義を意識しながら、主体的に学ぶ生徒の育成
～人間性を高め、資質・能力を身につけるための授業改善を通して～

2. 年間事業計画

（1）　５月　年間計画（湘光中学校）
（2）　７月　教科合同研究会（湘光中学校）

3. 研究日程と活動

（1）　５月７日（火）　郡中研合同研究会・美術科部会（湘光中学校）
①　本年度研究テーマの決定②　年間事業計画の作成③　必要経費の確認
（2）　７月１日（月）　授業合同研究会（湘光中学校）
『包み込め！大井町の愛情弁当！～大井町のよさを引き出すパッケージをデザインしよう～』　Ａ表現（１）－イ（ア）、（２）ア（イ）　Ｂ鑑賞ア（イ）
指導者　山田　桃子教諭

大井町をＰＲできるようなお弁当のパッケージをデザインすることで、構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練る力をつけることをねらいとした授業提案が行われた。町と交渉を進め、生徒のデザインしたものが実際に大井町で販売される予定である。研究協議では、生徒の発想力をどのように引き出していくのが効果的かという視点で意見交換が活発に行われた。また、生徒が調査したマーケティングの実際と生徒自身が発想したデザインの提案性との兼ね合いをどのようにつけさせていくかというパッケージデザイン題材の難しさについても議論された。助言者である県子ども教育支援課の竹下護指導主事からは、新学習指導要領との関連を軸に、見方や考え方を深める鑑賞活動と発想や構想をする制作活動を共通事項で連帯させることが、生徒の考えを高め、深め、発想力を引き出していくことにつながる等、多くの助言をいただいた。

4. 今後の課題（まとめ）

美術科教科部会では、研究テーマをもとに生徒の深い学びについて考え、各校で授業改善に取り組んできた。引き続き、美術が社会で生かされているということを生徒が実感できる授業づくりを意識した授業改善を続け、主体的に学ぼうとする生徒の育成を図りたい。

７ブロック（小田原・足柄下地区）

１．研究テーマ　「主体的に学ぶ生徒を育てるための授業づくり」
～うけつぐ　つなぐ　ひろげる学びを通して～

以前から研究テーマとして取り組んできた「うけつぐ　つなぐ　ひろげる」を中心に、美術科における「見方・考え方」のとらえと「対話的で深い学び」について協議を行いながら、授業研究や研修会を行い、研究を進めた。

２．研究内容・活動内容

（１）研究日程

日　　時	内　　容
4 月 10 日(木)	第１回美術科部会　年間計画と役割分担
6 月 5 日(水)	第２回美術科部会 研究テーマについて各校の取り組みと情報交換　研究計画
8 月 5 日(月)	夏季研修　１１月の授業研究に向けて指導案検討と協議
9 月 5 日(木)	第３回美術科部会　中学校生徒美術展準備会
10 月 31 日(木) ～ 11 月 7 日(木)	小田原・足柄下地区中学校美術展
11 月 8 日(金)	第４回美術科部会　提案授業の参観と協議、指導助言
1 月 9 日(木)	第５回美術科部会　年間反省　次年度に向けて

（２）研究内容のまとめ

今年度の研究テーマの軸として「美術科における見方・考え方とは何か？」という所に視点を当てて、各先生方のとらえ方や実践をもとに、班別協議などを積極的に行った

夏季研修のワークショップでは事前に自画像をテーマに目的をもって題材を考え持ち寄った。どのような力を身につけさせたいかなど意見交換し、他校の実践計画や考えを共有した。講話として、講師の横浜国立大学教育学部の小池研二教授から、「生徒の主体的で深い学びを喚起する『問い』とは」という演題で講演していただいた。その中で。思考や判断を促すような問いと、教科の本質から定まった答えのない『問い』がもたらす学びの大切さを学んだ。

また、11 月に実施する湯河原中学校の柳原優希教諭の自画像の鑑賞の授業の指導案について、検討をしながら、鑑賞の授業での「見方・考え方」や、「深い学び」の場面について、みんなで意見を出し合いながら、深めることができた。

ここ数年、小田原・足柄下地区の研究部会では、よりよい授業をしていくために、班別協議を多く取り入れ、各校の美術科の先生方の意見を伝え合いながら、教師自身の学びを深めていくことができている。「教師１人１人の授業に対する見方・考え方」を批判し合うのではなく、みんなでその「見方・考え方」を大切にしていくことで、教師の学びが深まっている。

（３）小田原・足柄下地区中学校美術展

１０月３１日から１１月７日までの会期で生徒美術展を開催。生徒美術展でも、研究テーマと内容を掲示するとともに、関連する題材や作品にマークをつけて、見学者にもわかるように明示。また、各校の実践内容について展示されている作品をみんなで鑑賞しながら、説明し合った。

７ブロック　県西　南足柄地区

１　本年度の研究主題

「豊かな創造を引き出し、作り出す喜びを高める授業力、指導力の向上」

２　年間事業計画

（１）　４月26日（金）　研究主題と年間計画の話し合い

南足柄中学校

（２）　８月23日（金）　絵画実習

南足柄中学校

（３）　11月１日（金）　授業研究

「でこぼこもようのなかまたち」

協議の柱　ア児童の創造を引き出すための手立て

イ児童が作る喜びを感じられる手立て

岩原小学校

３　研究日程と活動

（１）８月 23 日（金）絵画実習　南足柄中学校

「運動会」をテーマに、水彩絵の具を用いた絵画実習を行った。中学校の美術科教諭を中心にし、人間の体や顔のバランス、背景などの構成をし、遠近法や絵の具の塗り方を工夫して、動きのある人間の動き方を学び合った。

児童や生徒と同じような題材、画材を取り扱うことによって、生徒や児童の目線で課題を発見したり、指導へ活かせる声かけや、描き方のポイントや着目点への導き方を深めたりすることができた。

（２）11月１日（金）南足柄市合同研究会

「でこぼこもようのなかまたち」岩原小学校　　長谷川　千裕　教諭

様々な画材で画用紙に凹凸をつけたものを版とし、インクをつけて紙に写す版画を行った。版の作り方を工夫することを通して、形や色、画材を選び、工夫して制作することのできる力を養うことを目的とし、梱包材や段ボールなどの身近な画材を用いて版を制作していく内容であった。

授業後の研究協議では、「児童の創造を引き出すための手立て」「児童が作る喜びを感じられる手立て」の２本を柱とし、教師の実演の仕方やパーツの作り方、写し方の手立て、活動の見通しのもたせ方、材料の触れさせ方などについて、活発な話し合いを行うことができた。

４　今後の課題（まとめ）

人員が減少傾向にあるため、役割の輪番の確認をしっかりと行い、各学校と連携しながら作業や役割を分担していく。来年度の人事異動等も踏まえ、円滑な引き継ぎができるようにしていく。

８ブロック　座間地区

１．　研究テーマ

「　　話し合い活動を通した豊かな表現と鑑賞を目指す。　　」

２．

３．　研究内容・活動内容などの実践報告

（１）　授業研究

①　南中学校　　森田　恵理子　教諭　2019 年 9 月 26 日

②　東中学校　　西　高子　　教諭　2020 年 1 月 23 日

（２）　座間市中学校総合文化祭展示部門への参加

会期 2019 年１１月１日（金）～１１月２日（土）

４．　まとめと今後の課題

今年度の教育課程では、座間市の発表があり代表の先生を中心とし、事前準備や打ち合わせ、当日の運営等、市内で協力し行った。研究発表では、話し合い活動を通じて生徒の発想力を深めることを重点に置いた発表を行った。

市内総合文化祭では、毎年美術科を中心に搬入・搬出作業を行っているが、美術科の作品以外にも、他教科や部活等での手芸作品や書道、レポートなど展示内容も充実し、保護者や地域の方々など、短い会期の中でも多くの見学者の来場に繋がっている。例年開催している２月末の青少年美術展は本年度は感染症予防対策のため開催中止となった。

また、授業研究での協議では各校での取り組みなど、教科指導の共有をすることができた。今後も研究大会や市内での部会等を通して研修の場としたい。

８ブロック　綾瀬地区

１．綾瀬市の研究テーマ「生徒自ら、主体的に発想・構想を広げる授業づくり」

２．活動内容・巡回展の実施

（１）２０１９年の活動報告

４月　綾瀬市美術部会　研究テーマ決定
５月　神中美総会　参加
７月　綾瀬市美術部会　美術巡検
８月　県央地区教育課程説明会　参加
１０月　綾瀬市美術部会　参加
１１月　神中美横浜ブロック大会　参加
　　綾瀬市美術部会・綾瀬市巡回展　参加
１２月　神奈川県中学校美術展　参加
１月　神中美総会　参加
２月　綾瀬市美術部会　参加

（２）２０１９年１１月２５日（月）～２０２０年２月１４日（金）綾瀬市巡回展

市内で研究テーマに沿った作品を作り、５つある中学校で巡回展を行った。本年度の研究テーマである「生徒自ら、主体的に発想・構想を広げる授業づくり」をもとに、それぞれの教諭が実践を行った。

３．実践報告

綾瀬中学校では、1 学年の「木工鍋敷き」では日本の家紋の事前学習・２年生の一点透視図法を用いた「砂絵」では多くのサンプルを事前に見せ様々な図形の学習を行い、生徒自ら、主体的に発想・構想を広げる授業づくりを実践した。３学年では銅板表札の授業で、表札に自分の名前と好きなデザインを組み合わせてデザインする授業を行った。クラスにはデザインを考えることが苦手な生徒がいるため、事前に日本の家紋や文様を学習した。その生徒たちは資料集の家紋などを元にアレンジして自分なりに表札をデザインすることができた。デザインが次々と思い浮かぶ発想・構想力が高い生徒はさらに良いデザインができていた。様々な事前学習をすることで、支援を要する生徒への手立てにもなった。研究テーマに沿った授業を行うことができた。

8ブロック（県央）　　海老名地区

1，研究テーマ　「小中連携と新指導要領に即した評価の研究」

2，活動内容

月	日	実　施　内　容　・　場　所			
4	12	研究主題、年間計画設定、予算立案	参加者	7	名
5	24	神中美総会参加	参加者	1	名
6	21	神中美地区代表者会議	参加者	1	名
8	2	県央教育課程	参加者	6	名
8	21	第2回神中美地区代表者会議	参加者	1	名
9	19	小中連携授業の打ち合わせ	参加者	2	名
11	6	神中美研究大会横浜大会	参加者	2	名
11	7	小中連携授業打合せ・実技研修（有馬小学校）	参加者	2	名
11	1415	関東甲信越静地区造形教育研究大会群馬大会	参加者	1	名
12	10	県・美術作品展搬入	参加者	2	名
12	13	小中連携授業・研究協議（有馬小学校）	参加者	7	名
12	22	県・美術作品展搬出	参加者	2	名
1	23	市中総文美術部門　作品搬入	参加者	7	名
1	24~	市中総文美術部門　受付	参加者	7	名
1	27	市中総文美術部門　作品搬出　・美術部会（展示反省　年間反省）	参加者	7	名
1	31	第3回神中美地区代表者会議	参加者	1	名

（1）研究テーマについて

・各校の年間計画についての情報交換

・有馬小学校での研究授業と情報交換の実施

（2）海老名市中学校総合文化祭美術部門の開催

【日時】2020年1月24日～1月27日

【場所】海老名市民ギャラリー

・各中学校の授業や部活動での作品を展示。

（3）小中連携研究授業・研究協議

【日時】2019年　12月13日（金）

【場所】海老名市立有馬小学校

【講師】高田洋一（ファシリテーター）

3，今後の課題・まとめ・次年度への申し送り

・今年度は県外研修が実施できなかったので、次年度は実技研修や美術館見学等によって見識を深め、貴重な情報交換の場としても活用したい。

・市民ギャラリー閉館後の市中総文展示部門の会場については、市中研事務局と連携して決定する。

・新指導要領の実施に向けて、題材や評価資料の具体的な情報交換を進めていく。

・今年度、市内中学校美術科部会の企画で小学校での研究授業と情報交換の場が持てたので、9年間の流れについての情報交換を計画していきたい。

８ブロック　厚木・愛甲地区

1.　第 8 ブロックの取り組み

厚木・愛甲地区では初めて美術を教える先生が増えています。そのため部会では授業で使用している教材や作品を持ち寄り、各校の先生からアドバイスや感想をもらう時間を設定しています。研究大会に向けての授業だけでなく、日々の授業で役立つ教材やワークシートを共有しました。

2.　厚木･愛甲地区の取り組み

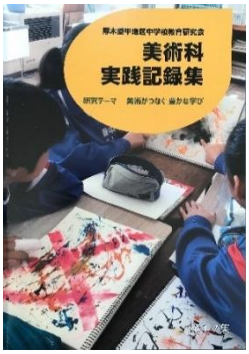
・研究テーマについて

厚木・愛甲地区では、『美術がつなぐ豊かな学び』というテーマで取り組みました。学校教育での美術の役割について考え、美術と子どもたちが心豊かにつながる授業を目標に、各校での取り組みを「美術科実践記録」にまとめました。

・活動内容

①美術科研究部会　年間活動内容

日時	活動	開催場所	活動内容
４月１１日（木）	第１回美術科部会	厚木市立林中学校	教育研究会総会
５月１７日（金）	第２回美術科部会	厚木市立南毛利中学校	研究テーマ、年間計画設定、予算立案
６月１７日（月）	第３回美術科部会	厚木市立南毛利中学校	学習発表会に向けて
８月１日（木）	第４回美術科部会	厚木市立南毛利中学校	教育課程研究会
１１月５日（火）	教科一斉研究会	厚木市立南毛利中学校	実践記録発表
１月１６日（木）～２１日（火）	美術科部会学習発表会	アミューあつぎアートギャラリー	美術科部会学習発表会搬入・展示・搬出
１月２７日（月）	第５回美術科部会	厚木市立南毛利中学校	年間反省、来年度に向けて

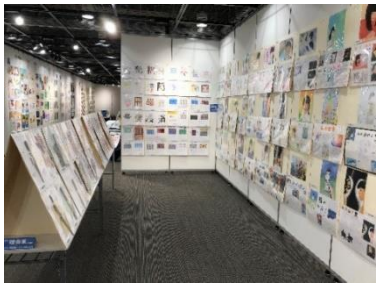


②授業実践集について

１１月５日（火）の教科一斉研究会では、『美術がつなぐ豊かな学び』をテーマに「実践記録集」を作り、各学校で行っている授業について発表しました。ふせんに感想や意見を書き込み交換する活動を通して、新学習指導要領における授業や、評価のあり方について考える機会となりました。

③美術科学習発表会について

１月１７日（金）～1 月２１日（火）にアミューあつぎのギャラリーで、厚木・愛甲地区 18 校の作品を展示しました。作品数は 1815 点と充実した展示会となりました。保護者や中学生も来場しており、制作した生徒の思いが伝わる展示で「感動した」という感想がありました。作品展が終了した後も、展示した作品を各学校で展示する、「巡回展」を行っています。短い期間の中、校内で他の中学生の作品をじっくりと眺める様子が見られました。



神奈川県公立中学校研究部会　広報部　連絡

会報作成の目的は、各地区で「取り組んでいること」や「活躍している美術教師のグループ・個人」の情報を全県下に広く紹介することです。

会報によって各地区の取り組みを知り、参考にしていただくとともに、神奈川県の美術科教師の相互理解を深めることができると考えておりますので、積極的な協力をお願いいたします。

なお、今後も会報の充実を図る意味からも、今年度ぜひ全地区からの情報が掲載できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

（１）主な内容

〇この一年間で各地区で実践・研究したこと
〇各地区で活躍した美術教師（グループ）及び内容
〇美術展・研究会等の内容報告　　など

あまり形にこだわらずお書きください。

（２）記載事項・記載方法（次ページ参照）

・原則としてこのように考えますが、報告する内容によって各地区で工夫していただいてよいかと考えます。
・記録等で写真がございましたらレイアウトして載せていただけると、よりわかりやすい報告となります。

原稿サイズ　A4縦（横書き）
文字数　４４文字
行　数　５０行程度
枚　数　１～２ページ

ここの部分が、なかなかうまくいきません。周りの余白を空けることを、お守りください。

その他のデーター
一太郎あるいはワード　１０．５ポイント
ヘッダ２１　フッダ２０　左２０　右２０　ページは入れないでください

※できましたら、上記の環境での原稿を広報部にご提出していただけると幸いです。
※全体を統一させたいので、手書きはご遠慮ください。

（３）提出時期・方法

提出時期　**２月末まで（期日の厳守をお願い致します。）**
提出方法　**各地区代表**が作成し、広報部　古谷までＥメール添付にて提出しま す。
（そのまま印刷しますので、ＦＡＸはご遠慮ください。）
提 出 先　〒237-0076 横須賀市　船越町７－６６　横須賀市立田浦中学校　古谷　尚
E-mail：4939suxw@jcom.zaq.ne.jp
※届いたメールには、届いたことの確認の返信をします。

（４）発行予定　令和３年度　神中美総会

◆記入例◆

４ブロック　横須賀地区

ブロック及び地区名を記入。地区の順序は会員名簿順に掲載します。
書体はゴシック体４倍画でお願いします。

１、研究テーマ「○○○○」やタイトル（全てゴシック体）

２、研究内容・活動内容などの実践報告（小項目はゴシック体）

（１）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○（以下　明朝体）
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（２）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
①　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
②
・
・

※ここにあげた記入例は、あくまでも例ですので形にこだわらずまとめてください。

◎各項目（表題）についてはゴシック体とし、記述内容は明朝体でまとめる。
◎写真を載せる場合は、レイアウトを考えて文章を左右に寄せるなどの工夫をお願いします。
◎１、２、３の項目の間は１行空けてください。

※製本の関係から左右の余白はしっかりとお取りください。
※各地区での取り組みの紹介を基本的に考えていますので、各項目については各地区の実情や紹介内容によって工夫して下さい。

その他、

ＪＢ通信と会報の混同にご注意ください。
ＪＢ通信は、広報部より担当の先生に原稿を依頼することがあります。
ＪＢ通信は、広報部で作成するので原稿の書式は自由になります。

※ＪＢ通信は、年３回発刊している。広報部が作成する通信紙です。会報は、年度末（２月末）に各地区代表が広報部に提出するものです。

広報部編集後記

この会報は、神奈川県全ての地区の１年間を振り返りまとめた冊子です。会報を見ることで、一人ひとりの美術科の先生方に、神中美の活動を知っていただけるようにと思い、年１回発刊しています。会報の制作にあたり、各地区代表の先生方、お忙しい時間を割いて会報への報告を誠にありがとうございました。

今年度の総会は、新型コロナウイルス拡大防止の非常事態宣言を受けて中止となりました。会報の配布も第１回目のブロック・地区代表者会にて配布させていただく運びとなりました。

尚、広報部では、JB-net（jb-net.biz）というウェブページを開設しています。年間３回のＪＢ通信とともに神中美の年間活動や広報活動をおこなっています。不定期で更新しております。

タイムリーに情報の伝達が出来る手段となるので、何か連絡したいことがあれば広報部まで連絡をお願いします。

神中美広報部部長　　古谷　尚（横須賀市立田浦中学校）

令和元年度
神奈川県公立学校教育研究会　美術科部会会報

発行日　令和２年（２０２０年）５月１３日
発行者　神奈川県立公立中学校教育研究会
　　美術科部会
代表者　神奈川県立公立中学校教育研究会
　　美術科部会会長
　　川崎市立住吉中学校
　　校　　長　縄田　芳信